

学校便り

第322号
平成26年2月1日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

一秒の短いことば

校長 鈴木 隆志

1月下旬には、わかば学級、2年1組がインフルエンザのための学級閉鎖となりました。御家庭におかれましても、うがい、手洗いの励行をはじめ、バランスのとれた食事、十分な睡眠時間の確保等、お子様の健康管理に御配慮いただきますよう、お願いいたします。

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われますが、年が明けて早一ヶ月、暦の上では春を迎えます。卒業まであと何日、進級まであと何日…と、残された時間に思いを巡らせる毎日なのかもしれません。「時間」は誰にも平等に与えられています。5年生が学芸会で演じた時間泥棒のように、誰かに時間を奪われない限り、一日は86,400秒です。時間を大切に使っていききたいものです。

山本^{よう}瓊子さんは、仙台の中学生が歌い、東日本大震災復興のシンボル曲となった「あすという日が」という歌の作詞者です。「あすという日が」は、震災前から卒業式などでも歌われていた曲ですが、山本さんは、強い使命感をもって震災後のアンサーソングとして「心に花を咲かせよう」という曲も作りました。山本さんは、人々の心に寄り添うことのできるうた、温かさと行動力と希望にあふれるうたをたくさん作られています。その山本さんの作品に「一秒の短いことば」という詩があります。

いとおしいと 思う	生きていくことが あつて	よき 出会いが あつて	きみとの 出会いが あつて	いのちがけで 守りたいもの	あゝ 何よりも 大切なもの	「ありがとう」と 答えてくれる	そして たった一秒の 短いことば	真剣に 話を 聞いてくれる	真剣に 話を 聞いてくれる	愛されていると 思う	わたしは 人生に 愛されていると 思う	よき 出会いが あつて	きみとの 出会いが あつて	たつたひとつ ほしかったもの	あゝ 何よりも 大切なもの	「よかったね」と 答えてくれる	そして たった一秒の 短いことば	頷いて 話を 聞いてくれる	笑顔で 話を 聞いてくれる	一秒の短いことば
--------------	-----------------	----------------	------------------	------------------	------------------	--------------------	---------------------	------------------	------------------	---------------	---------------------------	----------------	------------------	-------------------	------------------	--------------------	---------------------	------------------	------------------	----------

「よかったね」「ありがとう」というたった一秒の短いことばが、相手の一生に残ることばになることもあります。「おはよう」「こんにちは」「またあした」「どういたしまして」「だいじょうぶ?」「どうしたの?」「ごめんね」「がんばってね」…、たった一秒の短いことばを声に出して言うことをためらったり、おっくうに思ったり、忘れてはならないのです。一日の限られた時間の中でも何度も声に出して言うべきことばなのだと思います。決して時間の無駄遣いではありません。

今年103歳を迎える日野原重明さん（聖路加国際メディカルセンター理事長）は、「いのちは、きみたちのもっている時間だといえますよ。」「自分以外のことのために、自分の時間をつかおう。」と教えています。いのち（時間）をどう使おうかと決める「こころ」の大切さを教えているのです。

私は、一秒の短いことばの中でも、とりわけ「ありがとう」を大切にしていこうと考えています。「ありがとう」ということばは、他者のために時間を使ってくれた人がいるからこそ生まれることばだからです。人のために時間を使う光っ子、人の役に立つ光っ子に育てていきたいのです。

卒業、進級までの限られた時間を大切に過ごしていきましょう。一秒を大切に。